

Gard Alert

紅海の治安警告 - 最新情報

こちらは、英文記事「[Red Sea security warning - update](#)」(2016年10月12日付)の和訳です。2016年10月14日の更新を反映しています。

イエメンの内戦が激化していることから、各国の海事当局は、紅海とアデン湾周辺を航行する船舶に対し、警戒態勢を強めるよう引き続き呼びかけています。

イエメンの内戦が激しさを増す中、イエメン沖を航行中の船舶に対し2件のミサイル攻撃が発生した模様です。最初の攻撃は2016年10月1日にアラブ首長国連邦軍の船舶を狙ったもので、2016年10月9日の2回目の攻撃では米海軍の船舶が標的となりました。ミサイル攻撃の主標的は今後も軍用船であるとは思われますが、バブ・エル・マンデブ海峡を通航中の商船が巻き添えになって被害を受けるリスクが高まっていることから、同海峡を通航する商船は引き続き万全の警戒態勢で航行する必要があります。

紅海、バブ・エル・マンデブ海峡、アデン湾を航行する船舶に対して各国の海事当局から出される最新の治安警告に注意を払うようにしてください。2016年10月7日付のGard Alert「[紅海の治安警告](#)」も参照してください。

2016年10月9日に出された米海軍の通告によりますと、紅海およびアデン湾を航行するすべての商船は、次のような行動を取ることが推奨されています。

- イエメン内で継続する内戦に注意すること。脅威は、ミサイル、発射物、海上簡易爆発物など、様々な形態を取る可能性があります。
- イエメンの海岸線から可能な限り離れるようにする。
- 制限水路とバブ・エル・マンデブ海峡を通航する際は、特に警戒を怠らないようにする。日照時間帯に分離通航方式(TSS)に則って最適速度を維持して航行する。
- 通常とは異なる活動や連合海軍に対する敵対行動やそのおそれに遭遇した場合は、VHFチャンネル16、または電子メール(cusnc.bwc@me.navy.mil)、電話(011-973-1785-3879)で報告する。
- 英国のMaritime Trade Operations (UKMTO)や米国のNaval Cooperation and Guidance of Shipping (NCAGS) (cusnc.ncags_bw@me.navy.mil)などの機関と可能な限りコンタクトを継続する。



現在、万が一に備えてバブ・エル・マンデブ海峡に配備される連合軍の軍艦が増加しています。また、連合海軍は、紅海およびアデン湾を通航する船舶の安全を確保するため、Maritime Awareness Call(海上での注意喚起の呼びかけ)、乗組員への質問、船舶への接近などの行動を取ることがあります。

Dryad Maritime 社が発行した2016年10月11日付レポート「[Security Advice for the Mandeb Strait](#)」も参考になると思われます。

イエメンのコレスポンデントである Gulf Agency Co. (Yemen) Ltd.からの情報によれば、イエメン港は途切れずに操業しており、状況は2016年7月27日付のGard Alert「[イエメン - 港湾の状況について](#)」でのご案内のとおりのことです。しかし、イエメンでの状況は依然として不安定であり、港の安全性や稼働状況は随時変更となる可能性があります。そのため、現地当局、船舶代理店、Gard のコレスポンデントなど現地の情報源へ頻繁に問い合わせを行い、最新かつ信頼性の高い情報を入手した上で安全状況を評価するようにしてください

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。
本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されています。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。